

2017年6月

保健・医療パラダイムシフト推進協議会 シンポジウムのご案内

『予測・予防に基づく健康長寿社会の新パラダイム：課題と挑戦』

各 位

保健・医療パラダイムシフト推進協議会
理事長 新井 賢一

◇ はじめに ◇

2015年5月に設立した「保健・医療パラダイムシフト推進協議会」では、協議会の理念・事業計画などが固まり、近くホームページを公開する予定です。また、協議会の理念に基づきチャレンジするスタートアップベンチャー企業を支援する「ベンチャーキャピタルファンド」を立ち上げました。これらを契機に、シンポジウム『予測・予防に基づく健康長寿社会の新パラダイム：課題と挑戦』を6月26日に開催するのでご案内を差し上げる次第です。

◇ 背景・理念 ◇

これまでの医療は、胎児・乳児期の死亡率減少、感染症などの単因子疾患の克服において成果をあげるとともに、医療の高度化により著しい寿命の延伸を見てきました。疾病に至る過程は人の社会的環境も大きく影響しています。当協議会は、新たに登場した生活習慣病を引き起こす諸要因について、胎児期から老年期に至る各世代のモニタリングデータの解析を結び付け、疾病の引き金となる慢性炎症の原因を究明します。それにより可逆的病期に於ける先制的療法を確立し、医療・創薬での専門的探索に貢献する等、医療対象のパラダイムシフトを加速することを理念としています。

◇ ビジョン ◇

当協議会は、個々人のHealthy Active Life (HAL) の実現を目指し、21世紀における出生・成長・老化・疾病までを含めた「疾病中心から健康中心」へ、「医療機関中心から個人中心」へ、「社会工学と健康科学から見た新たな生活環境のあり方」へとする新たなプラットフォームを構築します。その中で P4 医療 (Predictive : 予測・Preventive : 予防・Personalized : 個別化・Participatory : 参加型) を確立し、“尊厳ある人生”の実現を図ります。

◇ 具体的な展開 ◇

21世紀型保健・医療のパラダイムシフトとして、これまでの「疾病発症からの対応」ではなく疾病に至るまでの原因因子の把握やその過程の変化がある程度わかるようになりつつあります。これは遺伝子情報や心体の状態を調べる計測・分析技術の急速な進歩に加え、

ウェアラブルセンサー等による生活情報把握の高度化により P4 医療に向けた基盤が整ってきています。こうした状況下、人の生涯にわたる心体の変化を多面的に計測し、データを蓄積する Personal Lifepath Book (PLB) の構築が不可欠になって参りました。個々人のデータの起点として、人生最初の細胞である周産期間葉系幹細胞をバンクすることで、ライフコースにおける様々な影響を調べるとともに炎症抑制と細胞修復治療にも活用できることが期待されます。これに関わるベンチャー企業によるチャレンジを推進し、これをサポートするためのベンチャーキャピタルファンドを組成します。更に実証実験の場 (Proof of Concept : POC) を確保し、コホート研究的な場としての地域病院とも連携していきます。

当協議会が提唱する「保健・医療のパラダイムシフト」による HAL の実現を目指すことで、ベンチャーから大企業に至るまでの多岐にわたる関連諸産業の育成、発展に資するものと確信しています。ご共感いただき皆様にこそぞって参加して頂きたいようお願い申し上げます。

◇ シンポジウムのプログラム概要 ◇

こうした理念、具体的な展開策等を踏まえ、シンポジウムを企画しました。プログラムの第 1 部では、胎児・幼児期、成人期、老年期に区分し、ステージ別に課題とソリューションについて、気鋭の研究者・臨床医に講演を頂きます。また、ステージごとに協議会が支援するベンチャーの経営者に事業概要と課題についてお話し頂きます。

第 2 部では、基調講演として、探索病院とヘルスケア病院の場を活用して、保健・医療の新パラダイム概念を検証する必要性について説明します

①ゲノム研究の格段の進歩と「ゲノム医科学と遺伝子治療」について東京医科歯科大学の村松正明先生に講演して頂きます。②元東大医科研究附属病院長の山下直秀先生から「健康を増進するヘルスケアホスピタル」と題してこれまでの健康診断を越えた予測・予防医療についてお話し頂きます。③元東大医科研究附属病院薬剤部長の黒川陽介氏から実際に薬剤を届ける立場からお話し頂く予定です。

多くの皆さまにご参加頂くようよろしくお願い申し上げます。

◇ 当協議会が後援・協賛する関連シンポジウム等 ◇

なお、当協議会が後援・協賛するシンポジウム等が当協議会のシンポジウムと併せ、一連の行事が予定されています。6月27日(火)には東京大学医科学研究所主催で「ゲノム・細胞治療」のシンポジウム、6月28日(水)～30日(金)に BIOtech2017「ベンチャーイノベーション・パビリオン」が開催されます。このパビリオンには、当協議会が支援するスタートアップのベンチャーが多数出展いたしますので、多くの皆さまにご覧頂ければ幸いです。

< シンポジウム開催概要 >

日 時 : 2017年6月26日(月) 9:00 ~ 18:00
場 所 : 東京大学医科学研究所・附属病院棟8階・トミーホール
(東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線 白金台駅2番出口から徒歩3分)
案内図 http://www.h.ims.u-tokyo.ac.jp/access/kounai_map.html
参加費 : 無料
定 員 : 100名 ※定員に達したため締め切らせて頂きました
主 催 : 保健・医療パラダイムシフト推進協議会

< プログラム >

以下 敬称略

司会 : 久野美和子 (当協議会 事務局長)

■はじめに

- 9:00~ 9:20 **理事長挨拶「オープン・イノベーションによる新パラダイムの開拓」**
新井賢一 (当協議会 理事長)
- 9:20~10:00 **会長講演「健康長寿社会への戦略シナリオ」**
寺島実郎 (当協議会 会長)
- 10:00~10:30 **基調講演「生命医科学と保健医療の新パラダイム」**
桜田一洋 (当協議会 理事)

■第1部 各ライフステージの課題とソリューション

- 1) 幼児期の課題への挑戦
- 10:30~11:00 **講演「DOHaD とエピジェネティクス」**
佐藤憲子 (東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子疫学 准教授)
- 11:00~11:30 **講演「生体バリアと腸内細菌叢」**
辻 典子 (産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 主任研究員)
- 11:30~11:40 **ベンチャー1 : 株式会社ミルケア 三木 茂 (代表取締役)**
- 11:40~12:00 **ベンチャー2 : 株式会社ライフバンクジャパン 高橋恒夫 (代表取締役)**
- 12:00~12:50 Lunch ※各自でご対応ください
- 2) 成人期の課題への挑戦
- 12:50~13:20 **講演「幹細胞の機能とヘルスケア」**
宮島 篤 (当協議会 理事、東京大学分子細胞生物学研究所 教授)
- 13:20~13:50 **講演「細胞・遺伝子治療の新展開」**
谷憲三郎 (東京大学医科学研究所 特任教授)
- 13:50~14:10 **ベンチャー3 : 株式会社 Trans Chromosomics 押村光雄 (代表取締役)**

14:10～14:30 ベンチャー4: VICXセラピューティクス株式会社 赤川栄二(代表取締役)

14:30～14:50 Coffee Break

3) 老年期の課題への挑戦

14:50～15:20 講演「超高齢社会を健康で生きる」

染谷 倭子 (聖隷クリストファー大学大学院 教授、東京女子大学 元教授)

15:20～15:50 講演「癌の治療とヘルスケア」

河野博隆 (帝京大学医学部 整形外科 主任教授)

15:50～16:10 ベンチャー5:「パーソナル・ライフパス・ブック」構想

吉井淳治 (福島県立医科大学 特命教授)

16:10～16:30 ベンチャー6: 株式会社 IM ホスピタル 高邑 勉 (代表取締役)

■第2部 保健医療の新パラダイムの概念を検証する探索病院とヘルスケア病院

16:30～17:00 基調講演「ゲノム医科学と遺伝子医療」

村松正明 (東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子疫学 教授)

17:00～17:30 基調講演「健康を増進するヘルスケアホスピタル」

山下直秀 (当協議会 理事、元東京大学医科学研究所 附属病院長)

17:30～17:50 基調講演「先端医薬品・治療法開発と薬剤部現場」

黒川陽介 (元東京大学医科学研究所附属病院 薬剤部長)

■まとめ

17:50～18:00 「健康長寿の新パラダイムを開拓する」

宮島 篤 (当協議会 理事)

■懇親会

18:30～ 同会場 (トミーホール) にて開催

<お問い合わせ先>

保健・医療パラダイムシフト推進協議会 事務局 (TNP パートナース内)

e-mail : info@tnp-g.jp TEL : 045-470-8088

以 上